

二〇二三年三月二六日

虫出しの雷に犬飛び出せり	む	べ		
春眠に乗り越す駅や一人旅	は	く	子	
パドックに熱き眼差しマスク越し	よ	う	子	
彼岸時化ビニールハウスただならず	素	秀		
離陸機を見送る猪名の春堤	せ	い	じ	
白梅の一と枝挿頭す無縁塚	な	つ	き	
風光る女の騎手の結び髪	よ	う	子	
海の風通ふ菜の花畑かな	わ	か	ば	
囀とせせらぎ供に山路かな	は	く	子	
春燈やジャズの洩れくる北野坂	凡	士		
故郷の名入りで売られ干鰯	こ	す	も	す
苗床となる軒下の林檎箱	愛	正		
小走りに春雨傘の僧一人	素	秀		
眩しかり常盤木襖なる桜	は	く	子	
斑鳩の相輪はるか棚霞	凡	士		
城跡の土塁になだれ落椿	か	か	し	

毎週句会秀句・みのる選・二〇二三年三月二七日